



令和 7 年度病虫害発生予察注意報第 9 号

令和 7 年 1 0 月 2 7 日
埼玉県病虫害防除所

ハスモンヨトウ、オオタバコガおよびシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が県内各地で多くなっています。このうち、オオタバコガとシロイチモジヨトウでは、地点によっては多発した昨年をさらに上回っています。

また、県内各地で、ネギやブロッコリー等で幼虫による甚だしい食害が確認されています。これら 3 種のチョウ目害虫は野菜類や花き類をはじめ多くの農作物を加害し、今後は施設栽培での被害も懸念されます。

オオタバコガやシロイチモジヨトウでは葉身や果実内に食入してしまうと薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 野菜類・花き類

病虫害名 チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病虫害防除所が県内に設置しているフェロモントラップへの、ハスモンヨトウ、オオタバコガおよびシロイチモジヨトウの雄成虫誘殺数が複数の地点で多く、多発生であった昨年をも上回る誘殺が確認されている地点がある（図）。
- (2) 10月23日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高いと予想されている。現在多発しているこれら害虫の活動が継続し、発生終息は遅くなることが予想される。
- (3) ナス、ブロッコリー、ネギなどの露地野菜や花きにおいて幼虫による食害が広く確認されている（写真1～6）。また、イチゴやトマトなどの施設野菜や、施設栽培および雨よけハウス栽培の花き類でも被害が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵や孵化直後の若齢幼虫を見つけたら速やかに薬剤散布を行う。ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウでは、卵塊や若齢幼虫の集団を見つけたら直ちに除去し、ほ場外で適切に処分する
- (2) 幼虫が作物の内部に食入すると薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうち

に実施する。また、抵抗性害虫の発生を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける（表1～3）。

（4）ほ場周辺の広葉雑草は発生源となるため（写真7・8）除草を徹底し、ほ場衛生に努める。

（5）施設内への侵入を防ぐため、出入口や天窓、側窓等の開口部に防虫ネットを展張するとともに、既に展張済の場合は破れ等の破損が無いか点検する。

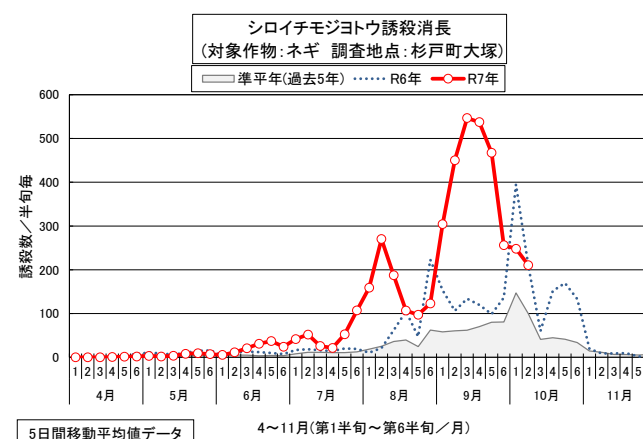
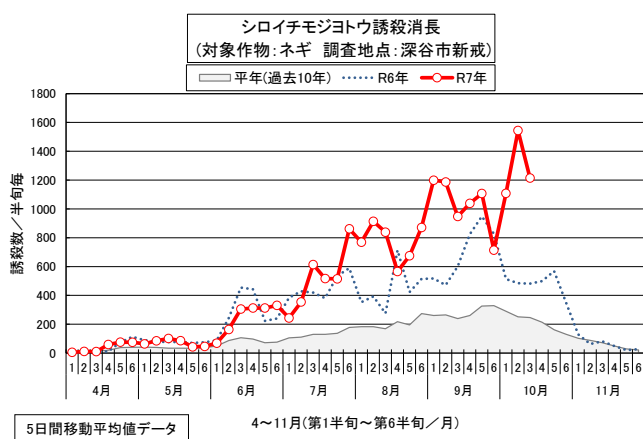
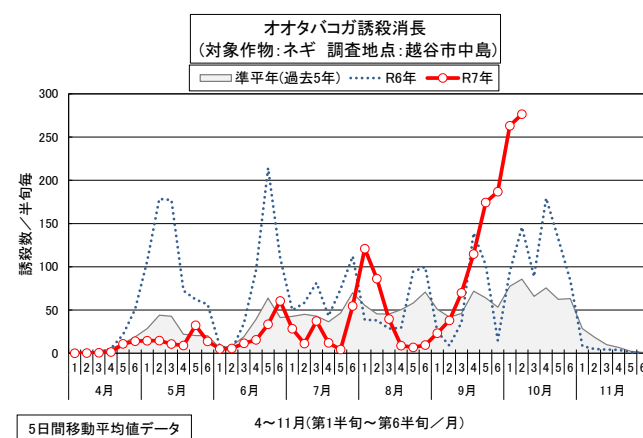
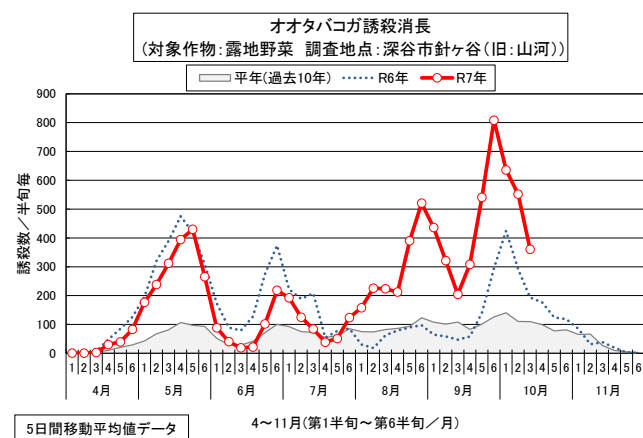
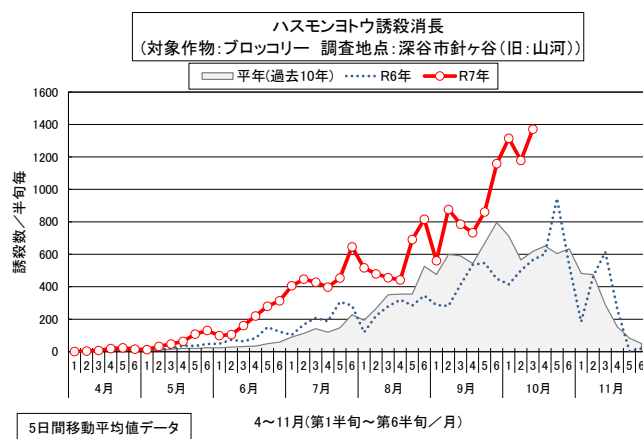
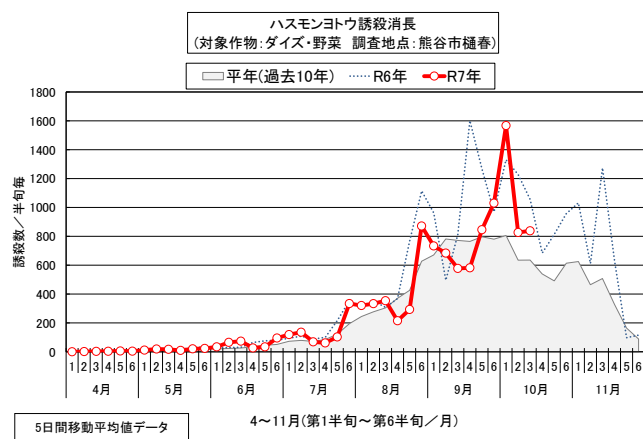


図 雄成虫の誘殺消長
(上段:ハスモンヨトウ、中段:オオタバコガ、下段:シロイチモジヨトウ)



写真1 ハスモンヨトウ
(ブロッコリー)



写真2 ハスモンヨトウ(ナス)

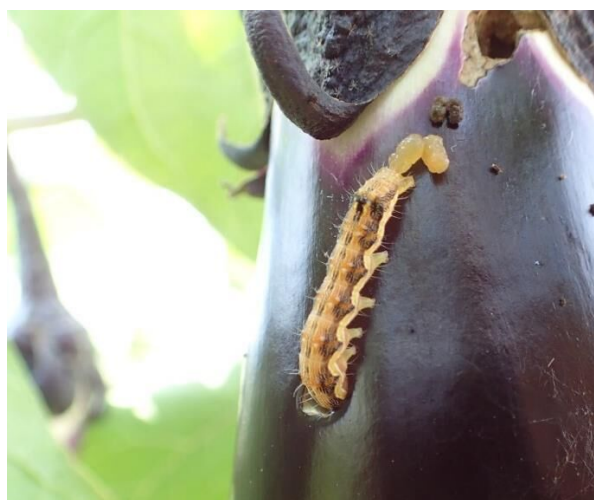


写真3 オオタバコガ(ナス)



写真4 オオタバコガ(コスモス)



写真5 シロイチモジヨトウ(ネギ)



写真6 シロイチモジヨトウ
(ブロッコリー:若齢幼虫群)



写真7・8 広葉雑草(左:シロイチモジヨトウ、右:ハスモンヨトウ)

表1 ネギにおける防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数	ハスモン ヨトウ	材 タバコガ	シロイチモンジ ヨトウ
アディオソ乳剤	3 A	収穫7日前まで	3回以内	—	—	○
スピノエース顆粒水和剤	5	収穫3日前まで	3回以内	—	—	○
アフームエクセラ顆粒水和剤	6、1 5	収穫7日前まで	3回以内	—	—	○
ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し収穫前日まで	—	○	○	○
コテツフロアブル	1 3	収穫7日前まで	2回以内	—	—	○
トルネードエースDF	2 2 A	収穫14日前まで	2回以内	—	—	○
ベネビアOD	2 8	収穫前日まで	3回以内	—	—	○
グレーシア乳剤	3 0	収穫7日前まで	2回以内	—	—	○

(使用基準は令和7年10月24日現在)

表2 ブロッコリーにおける防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数	ハスモン ヨトウ	材 タバコガ	シロイチモンジ ヨトウ
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内	○	○	○
アニキ乳剤	6	収穫3日前まで	3回以内	○	—	○
ジャックポット顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し収穫前日まで	—	—	○	○
コテツフロアブル	1 3	収穫3日前まで	2回以内	○	—	○
ブロフレアSC	3 0	収穫前日まで	3回以内	○	○	○

(使用基準は令和7年10月24日現在)

表3 花き類における防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数	ヨトウムシ類	オオ タバコガ
ディアナSC	5	収穫前日まで	3回以内	—	○
アフーム乳剤	6	発生初期	5回以内	○	○
プレオフロアブル	UN	発生初期	4回以内	※	○

※ハスモンヨトウとして登録

(使用基準は令和7年10月24日現在)

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）で確認できる。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

4 問合せ先

埼玉県病虫害防除所 電話：０４８－５３９－０６６１